

アーティストックス通信

No 5 新春特別記念特大増刊号



新年明けましておめでとうございませう

平成21年、また新たな年が始まりましたね。皆さんにとって昨年はどうな一年だったでしょうか？そして、今年はどうな年にしますか？

私にとつての出来事の一つは、この通信を発行し始めたことです。私はこの通信を通して「一隅を照らす」ようになっていきたい、そして、そういった仲間が社内外に一人でも増えていってほしいという思いで、毎月この通信をお送りしています。

周りを見回すと、昨年後半から不況が本格化してきました。今年はいっそう不況が進むことでしょう。そして、経済だけではなく、自分さえよければいいとか、他人に無関心な人や自己中心的な人など、世の中がどんどんと悪くなっているように感じます。このような時代だからこそ、企業が果た

す役割が大きくなっていきます。元来日本では、仕事はただ単に生活費を稼ぐ手段のみならず、人としての成長、自己形成も兼ねていました。「仕事を通して一人前の大人になる」ことです。

私たちはこれからも、「磨け！人間力」のテーマのもと、一人前の大人、立派な技術者として人の役に立ち、必要とされる私たちになること。そして、そういう人たちが応援していく私たちであるよう、常に成長を求めていきます。

今年も一年よろしくお願ひします。
サンタが幼稚園にやってきました!!
12/22(月)、半日仕事をお休みさせてもらって、幼稚園でサンタクロースをやってきました。



エコキャップ運動を応援しています
ペットボトルのキャップをリサイクルし、CO2削減に寄与しながら、収益で東南アジアなどにポリオワクチンを寄付する運動です。私たちは、イーリードさんやウイサポートゆうさんなどと一緒に、K-MIXの活動を応援しています。



子供の純真さに心が洗われる思いでした。サンタさん（私たちのことですよ）を見るキラキラした目、うれしそうなお表情。まだサンタさん信じているのかなあ。夢を壊して

山梨県忍野村にある、忍野幼稚園。園長さんは、私が勉強会などでも大変お世話になった渡辺津耶子先生。掃除実習で、ここを何度もお借りしたりと、園自体にも、何かとお世話になっているところです。

ここには昨年も来させてもらいました。初めてサンタさんをやることになった時は、恥ずかしくって「いやあ、これは困ったぞ」と思ったものでした。しかし、いざやってみると、



- 1月イベント・活動予定**
- 6(火) JISA 賀詞交歓会
 - 10(土) 後藤昌幸氏講演会 静岡経営塾 賀詞交歓会・合同経営計画発表会 静岡労働会館
 - 10・11(土) 静岡経営塾 藤枝・オリジン・コーポレーション様
 - 14(水) 山中湖建設的な生き方を学ぶ会 安心サービスクラス
 - 15(木) PM 沼津建設的な生き方を学ぶ会 沼津市原地区センター 沼津経営塾 沼津市民文化センター
 - 16(金) 月例社内研修 (MG)
 - 18(日) Eそうじの会 沼津市原・イーリード様
 - 24(土) 愛知とし子さん無料ピアノリサイタル 三島 ヴァンヴェール92番館

通信の送り先が違うなどの方は、お手数ですが、下記までご連絡ください。

はいけないな。そんなことを思いながら、プレゼントを一人ひとりに渡しました。「ありがとう」「メリークリスマス！」と、元気に返してくれる姿がほほえましかったです。

お詫びと訂正
前号の裏の言葉で、「人は動かす」とありましたが、正しくは「人は動かす(動かす)」です。下記の文字を切り取って貼って修正ください(笑)



いったん志を抱けば

この志にむかつて事が進捗するようない

手段のみをとり

いやしくも弱気を発してはいけない

たとえその目的が成就できなくても

その目的への道中で死ぬべきだ

「竜馬がゆく」(司馬遼太郎)より

坂本 龍馬 (さかもと りょうま、天保6年11月15日(1836年1月3日)・慶応3年11月15日(1867年12月10日)は、幕末の日本の政治家・実業家。土佐藩脱藩後、貿易会社と政治組織を兼ねた亀山社中・海援隊の結成、薩長連合の斡旋、大政奉還の成立に尽力するなど、志士として活動した。贈官位、正四位。司馬遼太郎の小説『竜馬がゆく』の主人公とされて以来、国民的人気を誇っている。また、その事跡についてはさまざまな論議がある。諱は直陰(なおかげ)のち直柔(なおなり)。龍馬は通称。他に才谷梅太郎などの変名がある。

生前より死後に有名になった人物であり、司馬遼太郎の作品を始め、小説やドラマに度々取り上げられる人物ではあるが、それらは実際の龍馬とかけ離れているのではないかという指摘は多い。歴史家の中に、特にそのような指摘をする人は多く、松浦玲などが代表格。『竜馬がゆく』(りょうまがゆく)は、司馬遼太郎の長編小説。幕末の日本を先導した坂本龍馬を主人公とした歴史小説。司馬遼太郎の代表作。世間一般でイメージされる龍馬像はこの作品によって作られたと言える。作品中において「竜馬」と表記されており、「龍」でないのは司馬自身がフィクションとしての彼を描いたためとも言われている。

(フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より抜粋引用)